

IoT社会実現に向けた次世代人工知能・センシング等 中核技術開発 令和3年度概算要求額 72.0億円（50.0億円）

産業技術環境局
産業技術プロジェクト推進室
03-3501-9221

事業の内容

事業目的・概要

- 顕在化する様々な社会課題を解決するキーテクノロジーであるAI基盤技術、自律・リモート化技術、センシング技術を実世界のすみずみまで実装させていくために必要となる次世代中核技術開発に取り組み、AI技術等を駆使したIntelligence of Things 社会の実現を目指します。
- 具体的には、人との協調性や信頼性を実現するAIシステムの研究開発や、自律・リモートシステムに必要なAI技術の研究開発を行います。さらに、信頼性を担保して高精度にリアルデータを取得するためのセンシングデバイス・システム開発を実施します。

成果目標

- 次世代AI基盤技術開発は令和2～6年までの5年間、AI社会実装技術開発は平成30～令和4年までの5年間、革新的自律・リモート技術開発は令和3～6年までの4年間の事業で、これらの研究開発の成果を活用して、12件以上のAIシステム等の研究開発が行われることを目指します。（令和7年度目標）
- 革新的センシング技術開発は令和1～6年の6年間の事業であり、民間企業等が開発する革新的センシング技術について、事業終了後5年以内の実用化率25%以上の達成を目指します。（令和11年度目標）

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1) 次世代AI基盤技術開発

AI技術を実世界に広く浸透させるために必要となる高度な基盤技術開発を実施。AI中核センターを中心として、人と協調できるAI・実世界で信頼できるAI・容易に構築・導入できるAIの構築を目指す。

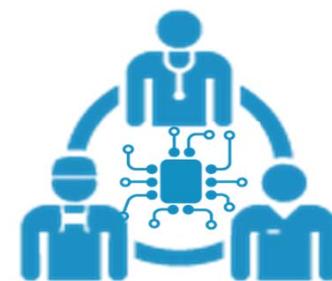
(2) AI社会実装事業

AI技術の社会実装を目指した産学官連携大規模研究開発

(3) 革新的自律・リモート技術開発

コロナ災禍後の行動変容を支える新しい社会・産業のインフラとして、AI技術を中心とした自律・リモート化技術の迅速な実用化と高度化を目指す研究開発を実施。

- 社会実装加速化技術開発
- 次世代基盤技術開発



(4) 革新的センシング技術開発

リアルデータを高精度・安定的・容易に取得可能とする超微小量センサや過酷環境用センサ等の開発に加えて、信頼性評価・向上技術の開発、IoT電源技術等の開発を実施。リアルデータのフロンティアを開拓し、新たなサービス市場の創出・獲得を目指す。

- 革新的センサデバイスの開発
- センシングシステム共通基盤技術の開発